

第4期(2022年度)
事業報告書

2022年4月1日から2023年3月31日まで
特定非営利活動法人 アクションタウンラボ

事業実施の方針

私たちは、孤立させない場所づくりをミッションとして、地域の文化や風習、自然などを守り育てている組織や活動を支援し、ネットワークを形成していきます。

「まちスポ福岡東」を主な活動拠点として、地元地域も活動エリアとし、地域課題の解決に取り組む組織や個人が会える場をつくり、連携を推進していくことでミッションの実現に取り組めます。

また、法人設立から安定した運営を図るまでの段階を3期に分け、各段階に沿った目標及び取り組み方針を定めて、ブランドの構築を図ります。

今期事業の重点項目

- 認定の取得
- ご縁の結び直しから、新しいご縁の創出へ
- 自主事業の開発
- 自立する団体へ向けて

今期は「創設期」から「開発期」へ移行する仕上げの年とし、認定NPO取得を目指しました。加えて、一昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響から、少しずつ生活の楽しみを見つけ、いろどりを添えていただくため、以下のことをテーマに取り組みました。

<令和4年度のテーマ>

やる気や興味の掘り起こし

新型コロナウイルス感染症の余波は、まだ続くと考えられます。しかし、来館者の様子を見ると、日常生活の楽しみや、やりたいこと、知りたいことの興味がむくむくと湧き上がってきているのを感じます。

NPO法人アクションタウンラボは、分断された関係性を改善し、一人一人のやる気や楽しみを形にするお手伝いや、「場」を用意しました。

第4期 事業報告書 目次

1. 交流スペースの利用促進に係る事業	P.1
コミュニティルームの利用促進	
1-1 まちスポ福岡東の運営	
1-2 利用者アンケートの実施	
1-3 施設利用を促進する事業	
2. 地域活動の相談対応等、まちづくりの推進に係る事業	P.3
まちづくりの促進を行う	
2-1 地域の相談対応	
2-2 新規事業の立ち上げ支援	
2-3 交流プログラムの実施	
2-4 まちのにぎわいと価値を創出する事業	
3. 地域活動団体等のネットワーク化に係る事業	P.4
3-1 全国まちスポ交流会への参加	
3-2 地域活動ネットワーク化支援事業	
4. 人材育成及び研修に係る事業	P.5
4-1 職員研修	
4-2 市民向け講座の実施	
4-3教育機関と連携した人材育成事業	
5. 地域情報の収集・発信に係る事業	P.6
5-1 地域情報の収集・情報発信	
5-2 ソーシャルメディアの運用	
5-3 定期刊行物やメールマガジンの発行	
5-4 団体活動の広報サポート	
6. パブリックスペース等の調査及び研究に係る事業	P.7
6-1 パブリックスペース等の調査及び研究に係る事業	
7. 災害に関する緊急支援および復興支援に係る事業	P.9
7-1 災害復興支援	
7-2 防災意識の啓発	
8. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	P.10

1. 交流スペースの利用促進に係る事業

コミュニティルームの利用促進

1-1 まちスポ福岡東の運営

コミュニティルームの貸館事業、ギャラリーコーナー展示、夜間会館

■貸館事業に係る結果

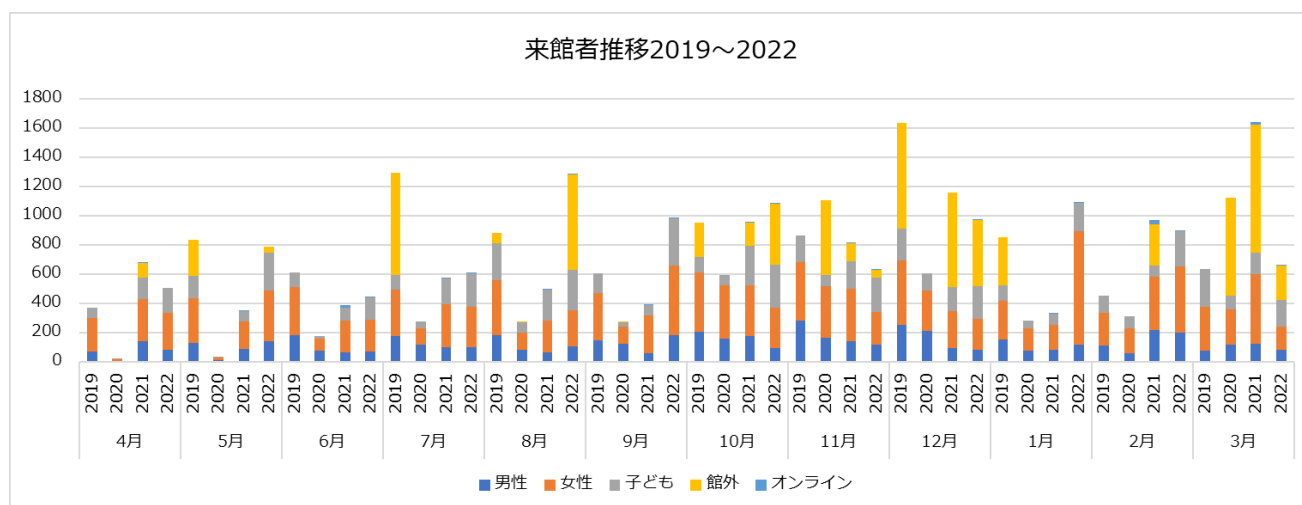
延べ来館者：10,337人／目標 8,400人

*ハッシュタグ化に伴い、活動スペースが広がったため。

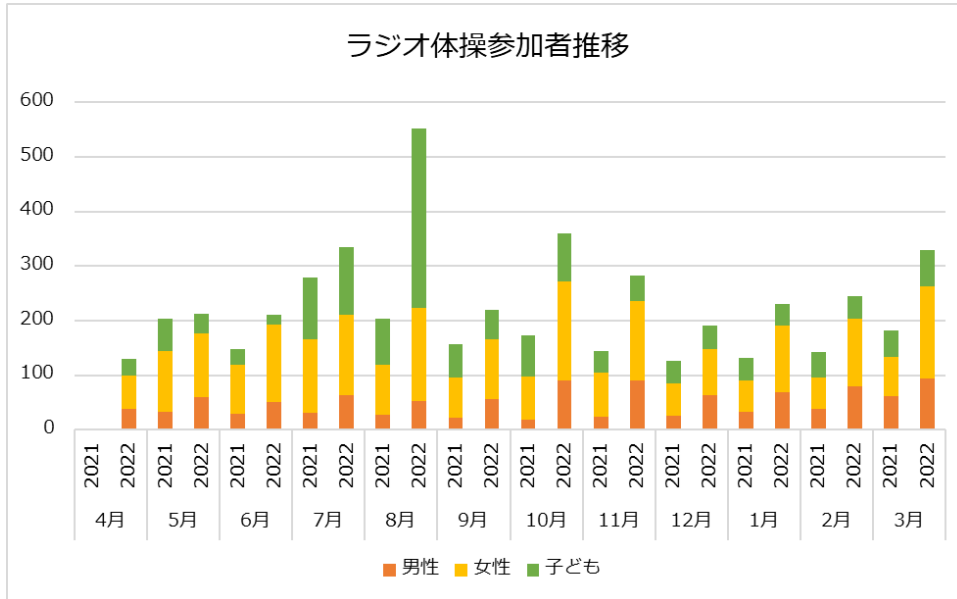
利用登録団体：75団体、ハッシュタグ登録団体：35団体

来館者数2019～2022推移

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019	男	72	132	186	177	186	149	209	281	255	157	115	76	1,995
	女	230	303	326	316	375	325	404	406	441	263	222	303	3,914
	子ども	71	153	101	103	253	132	104	179	216	104	120	260	1,796
	館外	0	250	0	700	70	0	237	0	728	332	0	0	2,317
合計		373	838	613	1,296	884	606	954	866	1,640	856	457	639	10,022
2020	男	8	12	77	118	82	123	159	167	216	79	63	121	1,225
	女	9	19	84	114	122	121	368	355	276	150	165	238	2,021
	子ども	1	1	14	47	66	26	70	74	118	54	86	93	2,021
	館外(オンライン含)	0	0	0	0	1	5	0	514	0	0	0	673	1,193
合計		18	32	175	279	271	275	597	1,110	610	283	314	1,125	5,089
2021	男性	143	87	68	102	64	60	179	145	97	82	219	125	1,371
	女性	291	192	214	295	221	259	346	356	249	170	365	477	3,435
	子ども	144	72	89	178	211	68	271	188	165	77	76	148	1,687
	館外	102	0	0	0	0	0	157	127	650	0	286	878	2,200
	オンライン	3	1	21	2	1	7	3	6	0	7	24	17	92
合計		683	352	392	577	497	394	956	822	1,161	336	970	1,645	8,785
2022	男性	84	140	73	103	105	183	98	120	86	121	199	85	1,397
	女性	254	347	219	275	250	479	275	221	210	773	454	158	3,915
	子ども	167	260	151	230	277	325	293	240	224	198	246	181	2,792
	館外	0	45	0	0	650	0	419	52	450	0	0	237	1,853
	オンライン	0	0	4	4	9	4	4	3	2	2	4	7	43
合計		505	792	447	612	1,291	991	1089	636	972	1094	903	668	10,000



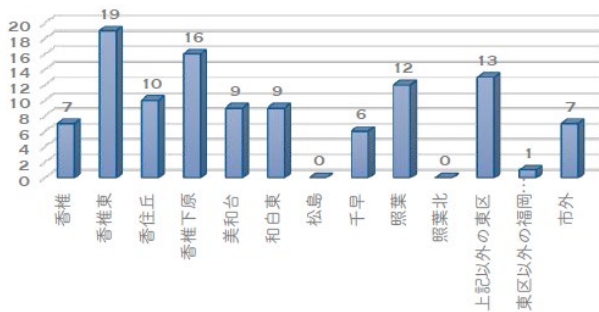
ラジオ体操参加者推移



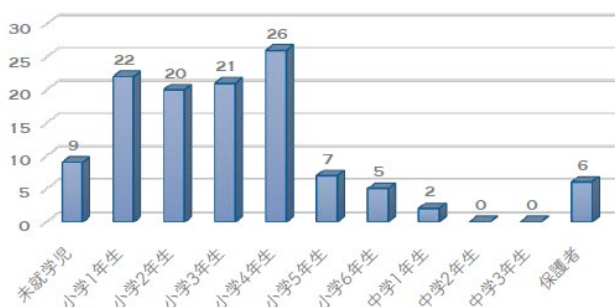
1-2 利用者アンケートの実施

こどもアートプロジェクト「おやこらくがきバトル」、サマーキッズラボ、スマイルフードドライブ、周年祭、フラワーバレンタイン、防災の学校で、利用者アンケートを行った。平均した満足度は8割と高かった。例) サマーキッズラボ：団体の校区だけでなく、香椎東小学校や、東区以外の小学校からの参加者が多かった。また、低・中学年の参加者が目立った。今後の事業の組み立てに、役立てていきたい。

サマーキッズラボ 校区別



学年別



1-3 施設利用を促進する事業 Men's kitchen

■実施回数：7回（9月～次年3月までの第1金曜日）、参加者：30人／目標42人



2期目のメンズキッチン。食事を習ったり、作ったりするだけでなく、情報交換から、新しい仲間づくりにつながっている。アタラボのボランティアにも、強力な助っ人として活躍して下さるようになった。

2. 地域活動の相談対応等、まちづくりの推進に係る事業

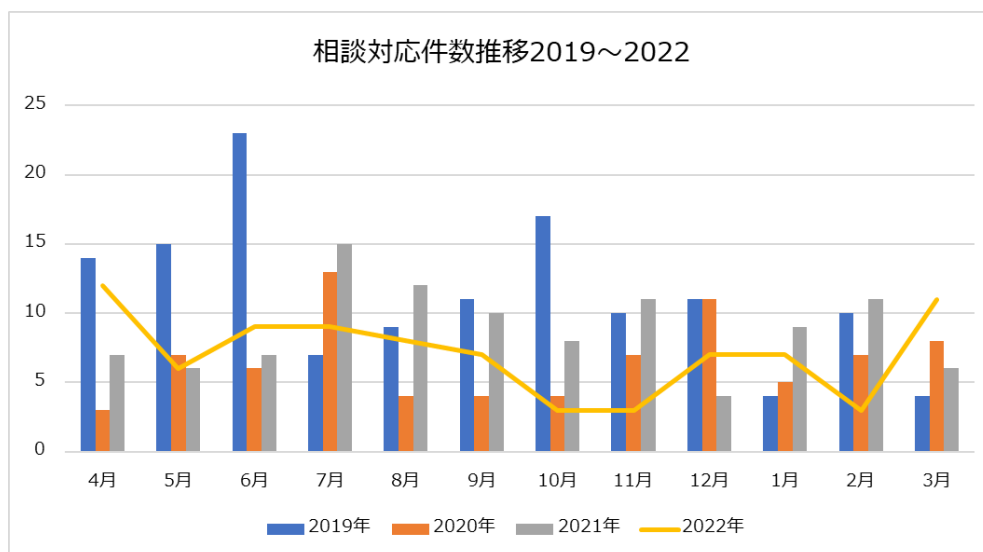
まちづくりの促進を行う

2-1 地域の相談対応

2-2 新規事業の立ち上げ支援

■相談件数：88件／目標 96件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
2019年	14	15	23	7	9	11	17	10	11	4	10	4	135
2020年	3	7	6	13	4	4	4	7	11	5	7	8	79
2021年	7	6	7	15	12	10	8	11	4	9	11	6	106
2022年	12	6	9	9	8	7	3	3	7	7	3	11	85



来場者の相談対応から、新規事業につながっている。特に関係者・団体の紹介と連携を進め、楽しいこどもマルシェ、女性起業家支援事業、サマーキッズラボ、みんな食 など、事業の新しい展開を図ることができ、活動の充実につながった。

2-3 交流プログラムの実施

地域の団体や個人など、まちに暮らす人々が交流する、みんな食、周年祭を行った。周年祭93人、みんな食2,899人（子ども1,542人、大人1,357人）の来場者があった。



つながる文化祭：ローカルアーティストの作品提示（13の個人及び団体）と、貴重な写真をお借りしての香椎今昔写真展を開催した。一つ一つの作品はレベルが高く、見ごたえがあった。

写真の亀田さん作品は、第54回福岡市美術展にて入省、展示されることとなった。

2-4 まちの賑わいと価値を創出する事業

ブランチャジオ体操（3296人）、花いっぱいプロジェクト（246人）、おやこらくがきバトル（46人）、サマーキッズラボ（107人）、スマイルフードドライブ（160人）、ブランチャ健康フェスタ（73人）、ブランチャクリスマスコンサート（150人）、フラワーバレンタイン（609人）、など、多数の事業を行い、多数ご来場をいただいた。参加者同士が仲良くなり、他の事業にもかかわってくださるようになった。



フラワーバレンタインフォトコンテスト、最優秀作品。ブランチャ福岡下原のマックスバリュー、メルクマール（写真館）、九州産業大学教授に審査員となっただき、応募作品125点の中から選考を行った。

3. 地域活動団体等のネットワーク化に係る事業

3-1全国まちスポ交流会への参加

令和5年1月23日（月）・24日（火）、まちスポ茅ケ崎にて全国まちスポ交流会に参加した。他のま

ちスポで行っている事業を学び、新しい事業や、新規事業立ち上げのヒントをもらった。交流会の後も、わからないことを聞くことができる関係性ができた。



3-2地域活動ネットワーク化支援事業

一昨年から継続支援を行っているフードドライブネットワークと、福岡市を中心とした子ども食堂ネットワークの構築支援を行った。



地域の公民館、施設、企業、ブランチ各店舗から集めた食品を、こども食堂（みんな食）運営者に手渡し子どもたち。みんな食のほか、ふくおかこども食堂ネットワークに所属する子ども食堂へも配布された。

4. 人材育成及び研修に係る事業

4-1 職員研修

職員のスキルアップを図り、事業内容の充実と、基盤整備のため、複数の研修に参加した。



研修内容：「社会課題を解決する「ソーシャルビジネス」の革新とは」（オンライン講座）、災害ケースマネジメントキャラバン（オンライン講座）、オンライン防災訓練 in 東区（オンライン講座）、小戸シーサイドピクニック視察、食品ロス削減推進サポーター養成要請オンライン講座、ミニミニふくおか、野外活動体験取材、人事労務入門講座（福岡市雇用労働相談センター）、SOSこどもの村福岡視察

4-2 市民向け講座の実施

前年度開催した女性起業家セミナーに参加をした受講者向けに、フォローアップ講座を開催、実施した（4名参加）。現在の事業の進捗と、困っている点などを聞き、対処の仕方について講師に話していただいた。

4-3 教育機関と連携した人材育成事業

まちスポキッズランド（のべ254人参加）、絵本の世界（482人参加）について、大学や、子どもたちへの読み聞かせなどを開催してきた団体などと連携した、子ども事業を行った。子どもの多様な体験と、生活に目を向けた愛情の醸成に貢献した。



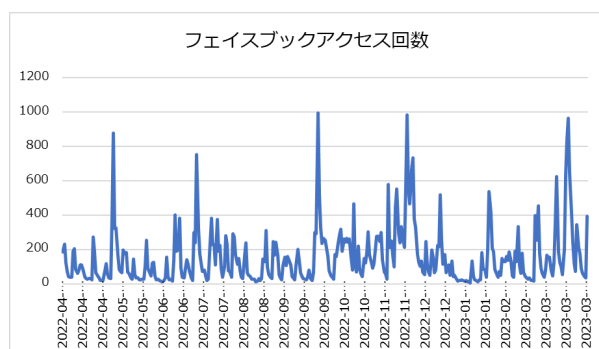
5. 地域の情報収集・発信に係る事業

5-1 地域情報補収集・情報発信

周辺の公民館、自治協議会と連携し、地域情報の収集を行った。地域の事業をフェイスブックで発信したり、まちスポでの広報物の配架を行った。

5-2 ソーシャルメディアの運用

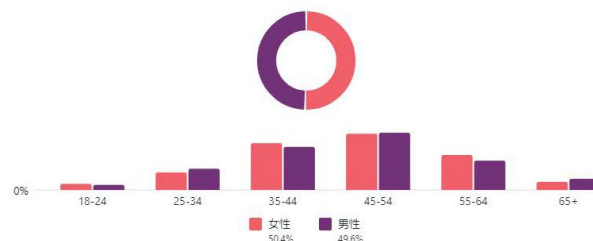
フェイスブックとインスタグラムで、事業や情報発信を行った。フェイスブックのフォロワーは、45～55歳が中心となっていることが分かった。



Facebookページのフォロワー①

1,254

性別・年齢①



5-3 定期刊行物やメールマガジンの発行

まちいろペーパーの、7号、8号を発行した。地域に密着しつつも、手に取った人が有効に使ってもらえるような、息の長いコンテンツを心掛けた。



07号 魅惑の飲み物“コーヒー”

08号 知っているようで知らない公園

5-4 団体の広報サポート

活動を続ける団体や地域活動、行政関係のチラシや、ポスターを配架、掲示した。

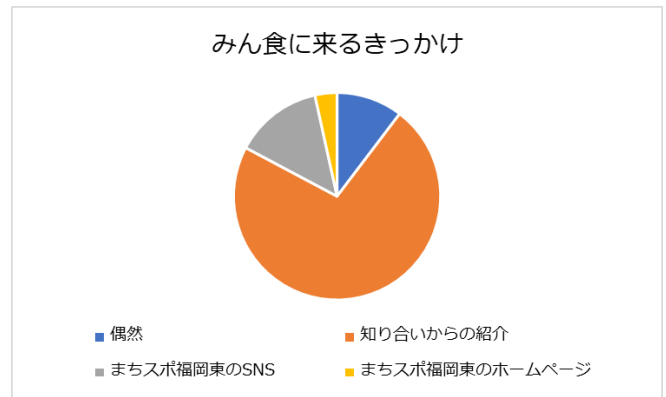
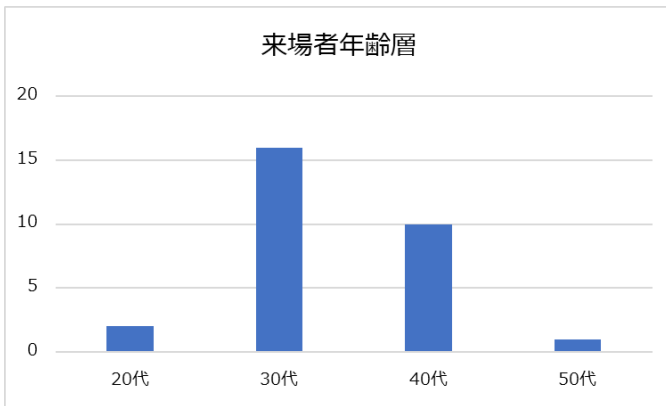
ギャラリー展示は、女性起業家の作家物、九州産業大学の学生の絵画・写真、高齢者の書、相談対応からの展示、福祉事業所のものなどを展示した。



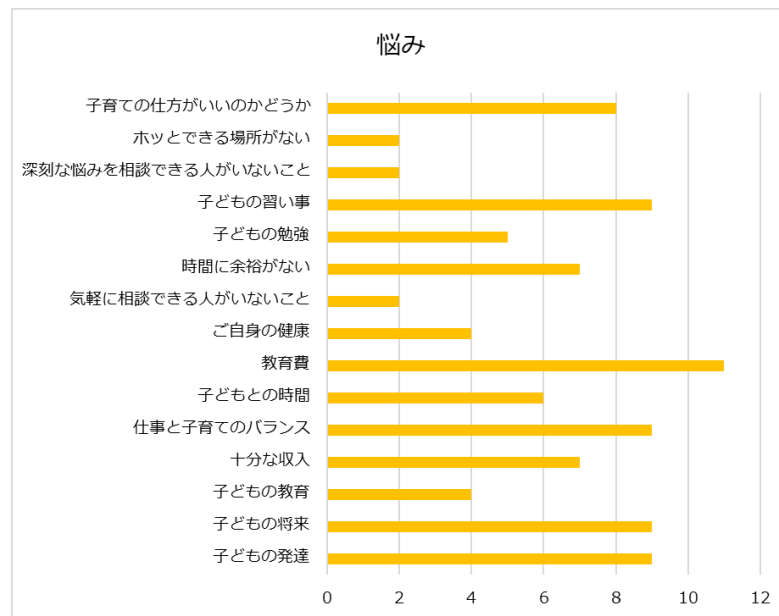
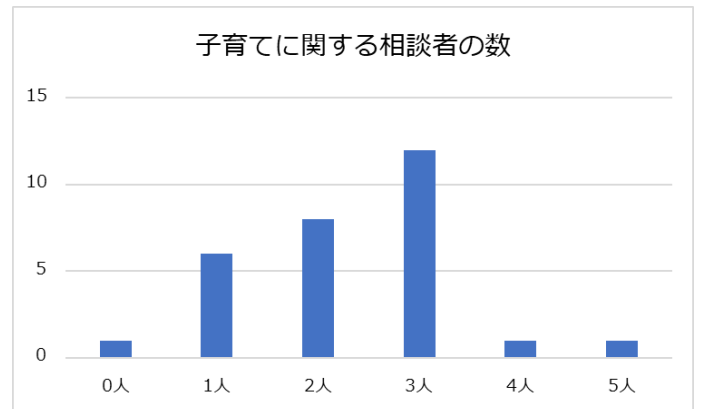
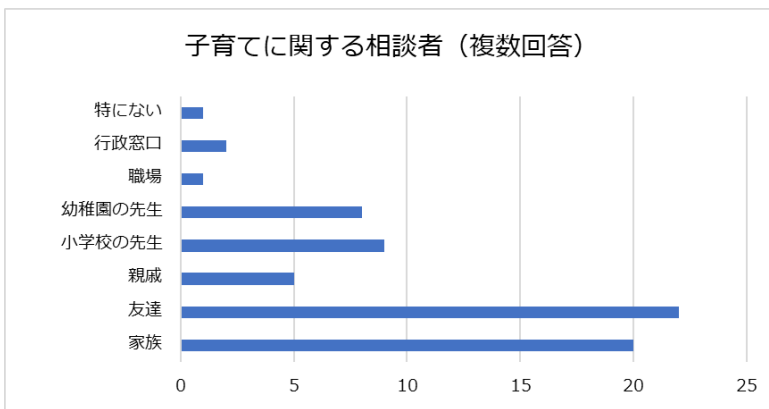
6. パブリックスペース等の調査及び研究に係る事業

みんな食（子ども食堂、地域食堂）来場者（大人）へ、アンケート調査を行った。

有効数は29名。女性28名、男性1名であった。30代の子育て世帯の割合が多く、知り合いからの紹介で来るようになった方が過半数以上であった。



子育てに関する相談者については、友だち、家族が圧倒的に多く、その次は小学校、幼稚園の先生であった。



子育てに関して誰に相談するか、複数回答を求めたところ、相談者の数は2~3人が多く、中には、誰もいないという方もいた。

そこで、みんな食来場動機と、子育てに関する相談者を何人持っているか、どれくらいの悩みを持っているのかの相関関係を調べた。

みんなに来るきっかけ	相談者の数	悩みの数	人数
知り合いからの紹介	1	1	1
	1	3	2
	2	1	1
	2	2	2
	2	3	1
	2	5	1
	3	1	2
	3	2	3
	3	3	2
	3	4	1
	3	7	1
	3	8	1
	4	5	1
5	3	1	
偶然、通りかかって	1	1	1
	2	4	1
	2	8	1
まちスポ福岡東 SNS	0	2	1
	1	7	1
	1	8	1
	2	3	1
まちスポ福岡東のホームページ	3	9	1

平均的には、3人程度の相談者があり、悩みながらも子育てをする世帯が中間層であるように見える。しかしながら、回答者の半数以上は、0～2人の相談者しか持たない不安定な状態で子育てをしている。中でも、偶然通りかかっての来場や、SNSからの来場者は、悩みを多く持つ傾向が見受けられる。一方で、子育てに関する相談者を複数人持つものの、たくさんの悩みをかかえており、心理的に追い詰められているのではないかと心配になる方たちも多くいることが分かった。回答者の中には、深刻な悩みを相談できる人がいないと答える方もおり、みんな食は欠くべからざる、重要な場所となっていることをうかがい知ることができる。

現在みんな食では、食事の提供のほか、配食を行っている。国からのひとり親家庭等の支援による食品提供があった場合、食品を受け取る希望があるかといった質問には、7割以上が欲しいと答えている。

7. 災害に関する緊急支援及び復興支援に係る事業

7-1 災害復興支援

7-2 防災意識の啓発

3回目にあたる「防災の学校」には、3月19日に開催し、延べ549人が参加した。今回は、より日常に近いところから防災意識を高めるためのプログラムを用意した。さらに、九州産業大学あかりプロジェクトと連携し、朝倉と3.11の被災地写真パネル展示と、福島の語り部から話を聞いた。



8. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

8-1 会議などの業務

通常総会1回、理事会4回開催。

8-2 会員に関する業務

賛助会員の募集は、年間を通じ行った。また、ホームページでクレジット決済ができるよう整備した。

8-3 自主事業の開発

防災の学校や、女性起業家支援についてのコンテンツを蓄積することができた。

8-4 認定取得

書類の漏れがないか、最終確認を行った。2月には認定審査の申請を行い、審査を受けることができた。